

小竹小の教育目標

共に生きる子ども かしこく（知） やさしく（徳） たくましく（体）

- 1 思い描く学校像→活力のある学校（学校は組織体である）
教職員、保護者、地域が熱い情熱をもって、子供たちのために、いかなる困難にも負けず、正面から向き合い全力を尽くす学校を目指す。
 - (1) 子供たちには「笑顔」と「自己肯定感」をもたせる学校。
 - ・毎日楽しく登校し、自分の力を存分に発揮できる。〈学校が楽しい（90%以上）〉
 - (2) 教職員が、「やりがい」と「誇り」をもてる学校。
 - ・教師が子供との信頼関係を築き、自分自身の指導力や責任感を高め子供の成長を喜びとを感じる。
 - (3) 保護者・地域には「安心」・「安全」と「安定感」を与える学校。
 - ・安心・安全が確保され、信頼される。また、誇りに思える。

確かな学力の定着と向上

- 1 基礎的・基本的な学習内容の定着
 - (1) 算数の授業改善→1・2年生で教員2名による授業体制の実施
3年生以上で少人数習熟度別授業の実施
 - (2) 自分の考えを豊に表現できる学習
 - (3) 家庭学習の定着→全学級で
 - ・例えば低学年では、音読や計算・漢字練習など（教師側が意図的・計画的に）
 - 高学年では、自主学習も取り入れる（自分で計画を立てて実施）
- 2 研究・研修の充実
 - (1) 校内研究の充実 ・総合的な学習の時間を主として、課題解決的な学習を行う。
- 3 特別支援教育の充実
 - ・ひまわり（特別支援教室）との連携
 - ・ユニバーサルデザイン化（どの子にもわかりやすい）
- 4 オリンピック・パラリンピック教育の推進
 - ・国際理解教育、日本の文化を知る。 ・最後まであきらめない気持ちを学ぶ。
- 5 小中一貫教育・幼保小連携
 - ・小中一貫教育では、11月の校區別協議会で小中の教員で指導案を練り上げて授業を行う。（保護者・地域にも公開）
 - ・近隣の幼稚園・保育園の園児を招待した取り組みを行う。
- 6 外国語活動（英語に親しむ活動）の充実
 - ・低学年（10時間程度）・中学年（15時間程度）〈英語講師・担任による授業〉
 - ・高学年（50時間）〈担任・ALTによる授業〉
 - ※旭丘中の英語科教員による外国語活動へのアドバイス

豊かな心と健やかな体の育成

1 心の教育の推進

(1) 基本的な生活習慣の確立

- ・「小竹小ミニマム10のルール」の共通実践→確実に実施（月ごとの評価）
- ・小竹小 「子供の約束」「保護者の約束」の共通理解
- ・「SNS小竹ルール」の定着

(2) 道徳教育の充実

- ・全教育活動を通じて道徳的実践力を高めていく
- ・週1回の「道徳の授業」を大切にする

(3) 「いじめ0」、「不登校児童0」の学校

- ・年間3回のふれあい月間の充実（子供の実態把握・アンケート調査の実施）
- ・子供の居場所のある学校（朝、子供を教室で迎える、休み時間等子供と過ごす）
- ・看護当番の確実な実施（休み時間の子供の状況把握→看護日誌）

(4) たてわり班活動の充実

- ・異学年の子供たちが豊かに触れ合い、人とのコミュニケーション力を育てる

(5) 教育相談の充実

- ・スクールカウンセラーによる5年生児童全員面接（1学期中）
- ・スクールカウンセラーと心のふれあい相談員による教育相談

(6) 吹奏楽部の活動（特色ある教育活動）

2 体力向上

(1) 新体力テストの実施→実態・把握

(2) 子供の伸びがわかる体育の授業→本時のねらいを意識する（「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能」）

(3) 外遊びの励行→休み時間には、外遊びを奨励し様々な運動遊びをとおして体力の向上並びに友達とのかかわりを高める

(4) 指導と評価の一体となった体育的活動→なわとび月間、マラソン月間の実施

保護者・地域との連携

1 地域と連携した活動

(1) 防災教室の実施 (2) 小竹の森音楽祭

(3) 学校応援団、葉かげのつどい (4) 地域スポーツにチャレンジ(12月8日(土))

- ・若竹クラブ（少年野球チーム）
- ・若竹ファイターズ（キャッチバレーボールチーム）
- ・児童ソフトテニスクラブ ・小竹少年サッカークラブ

(5) ゲストティーチャーの招聘（相撲教室、水道キャラバン、理科教室 他）

(6) 「練馬区学校・地域連携事業」の実施

2 地域に開いた活動

(1) 学校公開 年間9回実施 運動会 音楽会 小竹まつり 中学校区別協議会（11月12日）

(2) 吹奏楽部定期演奏会